

令和6年度 学校評価書

東温市立川上小学校

令和7年2月3日

- 1 学校の教育目標
未来を拓き、ともにたくましく生きる川上っ子の育成
- 2 経営の基本方針
○協育 みんなが協力して育つ学校 ○共育 互いに聴き合い共に育つ学校 ○響育 互いの心が響き合う学校 ○郷育 故郷に生まれ、故郷を想い、故郷に還す学校
(目指す児童の姿) ㊦ わすあいさつ ㊧ かけあう心 ㊨ んがえ、聴き合う力 ㊩ んなで創り、踏ん張る力

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			○考察及び●改善方策	学校関係者評価委員の評価
			教職員	児童	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	教育相談の充実といじめ・不登校等の未然防止、早期発見・早期解決に努めた。	3.5	3.6	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員間での報告・連絡・相談を積極的に行っており、いじめ・不登校等に対し早期発見し迅速に対応している。また、毎月の学校生活アンケートの結果を基に教育相談の充実に努めたり、関係機関との連携を図ったりしている。児童間では、友達を傷付けてしまう言動やSNSでのトラブルも見られるため、相手の気持ちを大切にすることや情報機器の正しい使い方などについて繰り返し指導している。 ● 挨拶や返事、時間を守る、履き物をそろえる等の基本的な生活習慣については、それぞれの生活習慣やマナーの大切さについて理解を深めるとともに、習慣化するように児童へ啓発をしていくとともに保護者に協力を仰ぐ。 ● 一人一人の児童への声掛けや目配りを重ねるとともに、保護者と情報を共有し、安心して不安や悩みを相談できる関係を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめ・不登校等に対しては、本音で相談できる大人の存在や居場所づくりが必要である。今後も児童の心に寄り添って関わっていただきたい。 ○ きめ細かく児童の姿を見たり考えたりしてもらっているのがありがたい。 ○ 学校の取組を理解してもらえるよう啓発が必要である。
	基本的な生活習慣の定着	挨拶や時間を守ること、整理・整頓などの定着に努めた。	3.1	3.0	3.0		
	生徒指導体制の整備	家庭や地域との連携を密にするとともに、報告・連絡・相談による情報共有に努め、組織として生徒指導を行った。	3.4	3.1	3.3		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	各種学習プリントの活用や「漢字の広場」「計算の広場」「朝の読書」を利用して、学習習慣の確立や基礎的、基本的内容の定着を図った。	3.4	3.3	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人がじっくりと考える「考えタイム」と友達や教員と対話しながら多様な考えを引き出す「ことりタイム」を効果的に取り入れ、授業展開を工夫することにより、自分で考え、聴き合う力の育成を図っている。また、基礎的な問題を繰り返し解いたり、学習アプリを活用して楽しみながら学ぶ活動を取り入れたりして、基礎学力の定着を図っている。 ○ 家庭学習の充実については、特に保護者が課題に感じている。また、タブレット端末を活用した家庭学習を取り入れることを希望する意見も見られる。 ● みきゃん通帳を活用した読書活動の推進や「愛媛新聞forスタデイ」を活用して新聞を読む機会の確保と読み取ったことを端的に要約する力を高める取組を継続する。 ● 家庭学習の充実については、学年の発達段階に応じて、基礎・基本の定着に向けて「読み・書き・計算」に関する内容をバランスよく出したり、単元別テストを基にした訂正ノートの作成や自主学習を取り入れたりして、学習を調整する力の育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習時間だけでなく、一人一人の児童が自分から進んでやる気を持ち、達成感が出る家庭学習になればと思う。 ○ 学校は、いろいろ工夫している様子がうかがえる。 ○ タブレットを使つての学習にも関心があり、有効活用されているのではないかと。 ○ 家庭学習の充実については、家庭での協力を得る方策も考える必要がある。
	家庭学習の充実	家庭学習の状況を点検し、主体的に学ぶ態度を高めるなど、家庭学習の充実を促した。	3.1	2.8	2.4		
	言語活動の充実	思いや考えを聴き合う「ことりタイム」や学級活動等で発表する場面を工夫し、考え、聴き合う力（プレゼンテーション力・他の人の意見（思い）を受け止める、自分の意見（思い）を他の人に伝える）を育成した。	3.2	3.3	3.1		
	思考力の育成	課題探究型の学習課題を明示し、授業展開を工夫することで、児童に思考力・判断力・表現力を育成した。	3.3				
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	道徳科を要とし、全教育活動を通じて、互いのよさ・ちがいを認め、生かし合う心、仲間とわかち合う心（コラボレーション力・だれとでも一緒に仕事（活動）ができる）を養った。	3.1	3.4	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事や委員会活動、学級活動を通して児童が自己存在感を感じ、自己有用感を育むことができるよう取り組んでいる。清掃活動では、異年齢集団で行い、協力して活動している。 ○ 運動会や持久走大会、縄跳び大会、「えひめITスタジアム」などに進んで取り組み、体力の向上に努めている。また、給食時間や家庭科など食に関わる教科での指導を通じて、適切な食習慣の形成につながるよう努めている。 ● 道徳の授業を要として、教育活動全体で道徳教育の推進を心掛け、相手の立場で考えるなど、多角的・多面的に物事を捉えることができるよう指導を継続する。 ● 適切な食習慣の形成のために、今後も継続的に取り組むとともに食育だよりやホームページ等で情報提供をしながら家庭と連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な学校行事を通して、児童は個性豊かに育ってきていると感じる。 ○ 地域の文化施設（坊っちゃん劇場など）を利用することはとてもよい。 ○ 体力づくりは、登下校や運動場での遊びでも育てられるので、その充実も考えていけばよいのではないかと。 ○ 純真で何事にも一生懸命頑張る子どもを育ててくれている。
	仲間づくり・集団づくり	異年齢集団活動や児童主体の活動を通して、みんなで創り、踏ん張る力（イノベーション力・仲間と共に新しいことに進んで取り組む・少々のことではくじけない）を育成した。	3.0	3.4	3.2		
	健康づくり・体力づくり	自らの健康に関心をもち、保健指導を通して自己管理能力の育成に努めるなど、健康の精神を培った。また、体力面の課題を把握し、体育的活動の充実を図り、健康の保持と体力・運動能力の向上を図った。	3.2	3.3	3.4		
	食育教育の充実	食に関する指導を通して、食についての関心をもち、望ましい食習慣の形成や食生活の改善に努めた。	3.4	3.3	3.0		
特別支援教育	特別支援教育の充実	児童一人一人に応じた学習指導や生活支援に努めた。	3.3	3.4	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人の違いや多様性を認め合い、友達が困っていたら助けたり、友達のよさを見つかったりすることができる学級づくりができるよう研修を積んでいる。 ● 安心感のある学級の中で、困ったときに自分から誰かに助けを求められることができる経験を積めるよう支援する。 ● 安心して学び、生活できるユニバーサル・デザインの学級・授業経営に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人の児童の特性を知り、個に応じた支援が必要な児童に対し、みんなで助け合う雰囲気をつくりたい。 ○ 限られた教職員の中で個別対応をしていただけるのはありがたい。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	登下校の安全確保に努めるなど、家庭や地域・関係機関と連携して児童をまもり育てた。	3.3	3.6	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登下校の安全確保については、保護者や地域の方の見守り、教職員の登下校指導など、多くの目で見守り活動を行うことで安全に登下校することができている。 ○ 様々な場面を想定しての避難訓練や防災教室の実施、教科での災害や防災等に関する学習を行うことで、児童の災害時の対応に関する意識を高めることができた。 ● 教職員・児童・保護者ともに地震発生時の基本的な行動の仕方を理解し、安全を確保するための訓練や啓発活動を今後も行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防災教室は学ぶことが多い活動であった。保護者にも啓発していきたい。 ○ 地域と連携しての登下校指導など、しっかり取り組んでいると思う。 ○ 下校時の見守りがもう少しできると親子ともに安心につながると思う。
	防災教育の充実	教科等における防災学習や行事等で防災指導を適切に行い、災害に適切に対応する能力の基礎を培った。	3.4	3.8	3.5		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとコミュニティ・スクールの推進	学校や学年、学級の教育活動に対して、保護者や地域住民、外部人材等の参画及び協力を得た。また、学校運営協議会は、「地域とともにある学校づくり」を進める中核としての機能を果たした。	3.2	3.4	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校外学習や体験学習において、保護者や学校運営協議会、協働活動サポーターと連携・協働し、児童の教育活動を支えることができた。また、今年度は、学校運営協議会からの提案で、総合的な学習の時間において福祉学習や防災教室を実施した。 ● コミュニティ・スクールと地域学校協働活動が一体となり、地域の人材や資源を活用した取組を充実させ、学校・家庭・地域みんなで息の合った教育活動を推進する。 ● 「校報かわかみ」や学年だより、本校のホームページなどで発信する情報の充実にも努め、本校の教育活動についてより理解していただけるように啓発をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校外学習や体験学習においては、今後も協力できることはしていきたい。 ○ 地域の方の学校に対する温かい気持ちを感じる。 ○ PTA組織の意義を確認する必要がある時期になっていると思う。 ○ PTA活動やコミュニティ・スクールの取組をもっと保護者に啓発していけるとよい。
	PTA活動への協力	各種PTA活動に参加したり、協力したりした。	3.0		3.4		
	情報の共有化	積極的な情報公開・情報の共有化に努め、学校・家庭・地域が息の合った教育活動を推進した。	3.3		3.5		
特色ある学校づくり	青少年赤十字活動	わくわく班活動やJRC活動への主体的参加を通して、奉仕や協働の精神を培った。	3.1	3.3	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運営委員会が中心となって挨拶運動に取り組み、全校に広げている。校内での挨拶は少しずつ明るく大きくなってきているが、地域の方や見守り隊の方への挨拶はもっとではないかと感じている。 ○ 緑の羽根募金や赤い羽根募金では、多くの家庭に協力していただいた。また、環境委員会を中心にボランティア清掃に取り組むなど、「健康・奉仕・親善」の意識を高めることができた。 ● 「健康・奉仕・親善」の意識を更に高めるためにはどうすればよいのか、学級や委員会活動において児童が主体となって考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挨拶でその日の子どもの様子が分かることもあると思う。元気で気持ちのよい挨拶ができるとよい。 ○ 挨拶や車が止まった時のお礼など、高学年を中心に気持ちよくできている。 ○ 継続した特色ある教育活動ができている。特別なイベントを行うのではなく、当たり前のことをしっかりと進めていきたい。
	挨拶運動	校内や地域で進んで挨拶を交わす児童（コミュニケーション力・誰とでも意見交換ができる）を育成し、親善の精神を培った。	3.0	3.3	3.1		
施設・設備の充実	ICTの有効活用	タブレット端末やICT機器を有効に活用し、分かりやすい授業づくりに努めるとともに、情報機器の適切な利用について指導した。	3.4	3.5	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ○ デジタル教科書の活用やタブレット端末、各教室に設置されたプロジェクター等を活用し、より分かりやすい授業に努めている。昨年度設置された大型ディスプレイは調べ学習のグループ発表などにも活用し、学習活動を充実させることができている。 ● 分かりやすい授業の構築や児童の情報活用能力を身に付けるため、今後も情報機器の効果的な活用方法を考え、実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT機器の効果的な活用については、子どもの立場に立った活用をお願いしたい。 ○ 学校全体に清潔感があり、教職員、子どもたちの日々の努力が実っていると感じる。 ○ インターネット環境がよくなるような方策を考えていきたい。
	施設・設備の安全管理	安全点検の日常化を図り、安心・安全な教育の場づくりに努めた。	3.4	3.6			
	校内環境の整備	季節感のある校内掲示や栽培活動への取組を行い、花と緑の美しい、潤いのある学校づくりに努めた。	3.4		3.3		